

◎ 発行 中京大学
〒466-8666
名古屋市中区八事本町101-2
■ 広報部
TEL. 052-835-7135
■ スポーツ振興室
TEL. 0565-46-6935
http://www.chukyo-u.ac.jp



中京大学スポーツ

学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ

2012 (平成24) 年
3月19日
創刊号

めざせ五輪晴れ舞台

学生アスリート座談会

五輪の舞台に向けて意気込む佐藤、浅田、市川、伊藤、安部の各選手 (左から)



可能性を広げ 羽ばたけ

今夏のロンドン五輪ハンマー投げで金メダルが期待される室伏広治・スポーツ科学部准教授Ⅱ写真Ⅱが、「中京大学スポーツ」の発刊にあたり、学生アスリートたちへのメッセージを寄せた。自らの経験に基づき、「スポーツを通じ、自分の可能性を広げて大きく羽ばたいてほしい」と、学生たちにエールを送った。

自ら先生に聞く

学生アスリートたちは、日々一生懸命に取り組み、努力し目標に向かっていく。それでも、スランプは必ずやってくる。私も学生時代に伸び悩んだ時期がある。それを乗り越えるため、大学の先生方に、自分の問題点や打開策をよく聞きに行った。



身に付いた。

大学の先生は、それぞれの専門分野のプロフェッショナル。学生の皆さんも是非、自ら進んで聞きに行ってください。新しい何かを獲ることができれば、

結果として向かうべき方向がよりはっきりとし、客観的に自分を分析する能力も

社会とのつながり

私は幸運にも長く競技に

報を学内外に発信します。

関係の皆さまには、学生や教職員、

同窓生が元気に活躍する様子を是非で

一読下さい。

学長 北川 薫

「中京大学スポーツ」の発刊を記念して、本学を代表する学生アスリートによる座談会が行われた。オリピックへの挑戦、競技の面白さや新入生へのアドバイスなど、高橋繁浩・スポーツ科学部教授(体育会長)の司会で、スポーツにかけ

る熱き思いを語り合った。出席したのは、陸上短距離の市川華菜選手、四百メートルの市川孝駿選手、義足の短距離ランナーの佐藤圭太選手、競泳自由形の伊藤健太選手、フィギュアスケートの浅田真央選手。フィギュアの浅田選手は紙上参加した。

高橋教授は、五輪出場に向けた気持ちを選手たちに質問。今夏のロンドン五輪を目標にする伊藤選手は「真剣に狙う最後の大きな大会」、市川選手は「個人も、リレーも活躍したい」、安部選手は「五輪の舞台で戦いたい」と、それぞれ決意を述べた。パリンピック出場を目指すためにロンドンに入った」と語った。バンクーバー冬季五輪を経験した小塚選手は「精一杯やり切れる場所」、浅田選手は「最高の舞台」と、選手にとつての意義を強調した。 〓 詳細は2面 〓

つては、変わった人間と思うことだろう。ただ、私はこのハンマー投げという競技に特別な価値を見出し、それが研究にもなり、社会とのつながりを持った。たかがスポーツかもしれないが、考え方、取り組み次第で想像以上に大きな可能性を持つことができる。先生とのつながりから、自分の可能性を大きく広げて羽ばたいてほしい。

私は大学3年生の時に初めて世界陸上競技選手権に選ばれたが、その時、当然とは思わなかった。経験を積ませよう、という周囲の期待を知っていたからだ。世界のトップ選手から吸収しようと思い、種目を超えて世界チャンピオンに練習方法を徹底して聞いた。大会翌日に私の練習を見ても良かった。これが最初のきっかけだった。これが最初の世界デビューだった。気負って何かを狙っていたら、得るものはなかった。今もこの経験が生きている。人脈もでき、競

技以外のシーンにもつながっている。いい競技成績を残すには最初のステップが大切である。

遊び場から世界へ

父・重信(名誉教授)が先生だったから、小さい頃から中京大のグラウンドが遊び場だった。それがいつの間にか、真剣に勉強する所、またオリンピック、世界選手権を目指す場所になった。この環境でできたことが、アテネ五輪、昨年の世界選手権の金メダルにつながった。学生、教職員の皆さんの応援があるからこそ、私は今ここにいます。ロンドン五輪に向けて精一杯頑張りたい。

ステップを踏もう

また、この「中京大学スポーツ」は、体育会のスポーツを一つにする大切な新聞だと思える。できるだけ多くの学生諸君に見ていただき、自分自身の励み、活力にしてほしい。

私はいま随分長い間、ハンマーを投げ続けてきた。しかし、興味のない人にと

学生アスリート座談会

「学生アスリート座談会」の詳細は次のとおり。

五輪への思い

高橋 今年はロンドン五輪がある。皆さんのオリンピックに対する思いを聞かせてほしい。

伊藤 20年間水泳をやっている。ロンドン五輪は真剣に狙う最後の大きな大会と思う。競泳最終日のメドレーリレーでメダル獲得が目標だ。個人の自由形でそれにつながるレースをしたい。

市川 五輪はテレビの向こう側のイメージだったが、大学に

入り、世界大会を経験し、少し近づいている大きな目標としたい。個人も、標準記録Aを切れれば(百メートル)出られる。個人で出て、リレーでも活躍したい。

安部 高校3年の時、将来は五輪に出場できるといって思っていた。それが世界ジュニア選手権の舞台(2010年、カナ

ダ)に立ち、五輪で優勝する目標が変わった。ロンドンは通過点かもしれないが、最終的に五輪の舞台で戦いたい。

努力した分が結果に...

競技の魅力

佐藤 病気のため、15歳で義足になり、リハビリのつもりで高校の陸上部に入ったところ、走ることが楽しくなってきた。

高橋 浅田選手は10年のバンクーバー冬季五輪を経験しているが。

浅田 五輪は、最高の舞台だと感じた。他の世界大会とは雰囲気全然違う。その中で演技した経験は、自分の今後にプラスになると思った。

競技の魅力

高橋 それぞれの競技の魅力や醍醐味を教えてください。

市川 陸上は個人競技。自分がやった分だけ結果がついてくる。努力した分だけ数字で表れる。結果が出た時はすごくうれ

高橋 競泳の場合、一つの大会で十個前後の世界記録が出るから、技術的に改良の余地がある。同じように、パラリンピックの人たちももっとレベルが高くなる。分析など中京大学でできることがたくさんある。大いに利用すべきだ。

伊藤 自由形は、陸上の百メートルの王者だ。メドレーリレーになると、国の力のぶつけ合いになる。世界のトップ選手は、複数回勝っている。日本に勝つべきだ。

安部 四百メートル障害は日本の陸上の王者だ。メドレーリレーになると、国の力のぶつけ合いになる。世界のトップ選手は、複数回勝っている。日本に勝つべきだ。

高橋 競泳の場合、一つの大会で十個前後の世界記録が出るから、技術的に改良の余地がある。同じように、パラリンピックの人たちももっとレベルが高くなる。分析など中京大学でできることがたくさんある。大いに利用すべきだ。

伊藤 自由形は、陸上の百メートルの王者だ。メドレーリレーになると、国の力のぶつけ合いになる。世界のトップ選手は、複数回勝っている。日本に勝つべきだ。

市川 陸上は個人競技。自分がやった分だけ結果がついてくる。努力した分だけ数字で表れる。結果が出た時はすごくうれ

高橋 競泳の場合、一つの大会で十個前後の世界記録が出るから、技術的に改良の余地がある。同じように、パラリンピックの人たちももっとレベルが高くなる。分析など中京大学でできることがたくさんある。大いに利用すべきだ。

伊藤 自由形は、陸上の百メートルの王者だ。メドレーリレーになると、国の力のぶつけ合いになる。世界のトップ選手は、複数回勝っている。日本に勝つべきだ。

安部 四百メートル障害は日本の陸上の王者だ。メドレーリレーになると、国の力のぶつけ合いになる。世界のトップ選手は、複数回勝っている。日本に勝つべきだ。

市川 陸上は個人競技。自分がやった分だけ結果がついてくる。努力した分だけ数字で表れる。結果が出た時はすごくうれ

高橋 競泳の場合、一つの大会で十個前後の世界記録が出るから、技術的に改良の余地がある。同じように、パラリンピックの人たちももっとレベルが高くなる。分析など中京大学でできることがたくさんある。大いに利用すべきだ。

伊藤 自由形は、陸上の百メートルの王者だ。メドレーリレーになると、国の力のぶつけ合いになる。世界のトップ選手は、複数回勝っている。日本に勝つべきだ。

安部 四百メートル障害は日本の陸上の王者だ。メドレーリレーになると、国の力のぶつけ合いになる。世界のトップ選手は、複数回勝っている。日本に勝つべきだ。

市川 陸上は個人競技。自分がやった分だけ結果がついてくる。努力した分だけ数字で表れる。結果が出た時はすごくうれ

高橋 競泳の場合、一つの大会で十個前後の世界記録が出るから、技術的に改良の余地がある。同じように、パラリンピックの人たちももっとレベルが高くなる。分析など中京大学でできることがたくさんある。大いに利用すべきだ。



市川華菜選手

11年ゴールデングランプリ川崎400メートルリレー日本新記録。座右の銘「自分を信じて」。(体育3、岡崎城西)



伊藤健太選手

2011年日本学生選手権100メートル自由形優勝。目標は「今の自由形世界記録保持者」。(体育3、中京大中京)



安部孝駿選手

11年アジア陸上競技選手権400メートル障害優勝。目標はハードル第一入りの為末大選手。(体育2、玉野光南)



浅田真央選手

バンクーバー冬季五輪銀メダル。「恵まれた環境に感謝の気持ちを忘れない」が初心。(体育3、中京大中京)



小塚崇彦選手

11年世界選手権2位。社会や競技ルールの変更に「臨機応変」が座右の銘。(体育学修士1、中京大)



佐藤圭太選手

広州2010アジアパラ競技大会200メートル優勝(アジア新記録)。「苦楽の種」が座右の銘。(体育2、焼津中央)



【司会】高橋繁浩教授

専攻・スポーツ生理学。84年ロス五輪88年ソウル五輪平泳ぎ日本代表。水泳部部長兼監督。

仲間を大切に

小塚(紙上参加) 五輪は、自分の競技に専念して、精一杯やりきれぬ場所だ。フィギュアスケートの世界選手権などは次の大会につながる要素があるが、五輪は五輪だけだから、思い切ることができるし、気持ちよくできる。14年ソチ冬季五輪には、自分がこうなっていたい、という理想は持っている。それに向けて今どうするかを考えて練習している。スポーツ選手には、自分がやりきってきたプロセス、道のりを思い出しながら、試合ができた喜びがある。練習を積んだ人が感じる楽しさがあると思う。

市川 大学で色んな人と出会ってから目標が見えてきた。その目標に向かって頑張ること。色んな可能性を広げることができ。自分が一生懸命になれるものを見つけて、頑張っている。授業でも、バイオ

常に刺激を受ける環境

心掛けていること

高橋 競技や練習、生活の面で心掛けていることは。

安部 大学で先輩を見ていて、食事を意識するようになった。色んなものを食べるようにしているし、食べ過ぎにも気を付けている。

市川 私自身にはすごく気を使う。昔は遊びに行っていたものを食べたい気持ちがあったが、今はきちんと調整している。

伊藤 オリピックを狙うとなると、自分も覚悟を決めて、毎日泳ぐように心掛けています。試合前は、3、4日で体重を4

高橋 中京大学であるが故に成長できたところは。佐藤 陸上競技部のみんながすごく意識が高い。自分もそういう意識を持たなくてはならない、それが競技力の向上につながった。

浅田 アスリートとして学んだのは、諦めなければ必ずできる、ということだ。佐藤 当たり前のことだが、

中京大でよかった

高橋 中京大学であるが故に成長できたところは。

佐藤 陸上競技部のみんながすごく意識が高い。自分もそういう意識を持たなくてはならない、それが競技力の向上につながった。

市川 コーチから専門的な練習をしてもらい、技術が相当向上した。リハビリのことなど、先生に相談すると、的確に答え

長水路、短水路のプールがあり、流水プールで技術のチェック

野で見ると、ヒントが転がっている。自分のパフォーマンス向けるものを見つけて、頑張っている。

高橋 目標が決まってきた。その目標に向かって頑張ること。色んな可能性を広げることができ。自分が一生懸命になれるものを見つけて、頑張っている。

市川 大学で色んな人と出会ってから目標が見えてきた。その目標に向かって頑張ること。色んな可能性を広げることができ。自分が一生懸命になれるものを見つけて、頑張っている。

高橋 目標が決まってきた。その目標に向かって頑張ること。色んな可能性を広げることができ。自分が一生懸命になれるものを見つけて、頑張っている。

市川 大学で色んな人と出会ってから目標が見えてきた。その目標に向かって頑張ること。色んな可能性を広げることができ。自分が一生懸命になれるものを見つけて、頑張っている。

「大学JAPAN」でNZ遠征

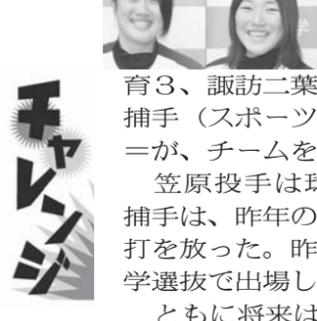
【ソフトボール部男子】深津悠平投手=写真左=と和田隆太投手=同右=(ともに体育2年、豊川)が、全日本大学選抜に選ばれた。ふたりは「大学ジャパン」の一員として2月、「ソフトボールの世界最高峰」と言われるニュージーランドに遠征した。



深津投手は制球がよく、緩急をつけた投球が持ち味だ。豊川高校時代から和田投手とバッテリーを組み、「投げたいと思ったボールのサインで出たら、大半は三振がとれる」(深津投手)と、息もぴったり。和田投手は、本塁打を年25本打つスラッガーでもある。チームは、東海地区の大学リーグで昨春2季ぶり39回目の優勝を飾った。インカレは、2年連続3位のため、「優勝がとれるところにいる。次こそは優勝したい」(和田投手)と、今夏の大会をチャンスと見ている。

黄金バッテリー

【女子軟式野球サークル】笠原優子投手(体育3、諏訪二葉)=写真左=と吉川知里投手(スポーツ科1、愛知淑徳)=同右=が、チームをけん引している。笠原投手は球速114キロが武器。吉川投手は、昨年の全日本大学選手権で本塁打を放った。昨秋のジャパンカップに大学選抜で出場した「黄金のバッテリー」。ともに将来は「プロの道へ」と話す。



チャンレンジ



愛知大学野球の1部復帰に向け、猛練習する選手たち

硬式野球「1部」へ全力

「悔しい思い」チーム改革

硬式野球部の半田卓也監督(05年体育卒)は、徹底した「チーム改革」に乗り出している。愛知大学野球で2部リーグに留まっているチームを1部に復帰させたいと、さらに学生野球のトナメント、全国大会の「神宮」への出場を見据えている。

新チームになった昨年11月から、改革は始まった。「練習量が少なかった」(半田監督)反省から、授業前に朝の練習を取り入れ、午後は技術練習に費やした。冬休みは基本を繰り返して、体力づくりに専念。2月末から10日間の中間キャンプには約60人で乗り込み、初めて全選手が参加した。

栄養食やトレーニング法の講習も受けた。練習の時から選手同士で大きな声を掛け合うようにもした。脱落者が出るほどの厳しい練習を続けるが、半田監督は

「選手たちの意識が変わった。チームに活気がでてきた」と手応えを感じている。中京大は、愛知大学野球

の春季、秋季1部リーグで過去33回の優勝を誇る。ところが、10年の秋季から2部に落ち、その後2部で3回優勝したものの、1部と

の入れ替え戦で敗れている。数少ない1部経験者の一人、田中勇次主将(体育3、中京大中京)は、「入替え戦で負けた悔しい思いはもうしたくない」と、今季にかける決意を語る。

春季リーグは4月7日の開幕。2部で優勝し、入れ替え戦を突破、秋季からの1部復帰を狙う。猛練習を乗り越えてきた選手たちは「試合で結果を出そう」と(田中主将)と、意気込んでいる。

バーは職業も出身も様々だが、足の速さは飯田選手が一番だ。ウイングを任せられ、1試合5トライとったこともある。「走り方が陸上とは全く違う。最初はステップが踏めなかったけど、1年やって感覚がつかめた」

昨年4月には、日本代表の香港遠征メンバーに選ばれ、代表として初の試合を経験した。「戦術の理解はまだ浅い。でも、ラグビーは奥が深いから楽しい」とのめり込んでいる。



陸上・飯田選手

女子ラグビーでリオ五輪めざす

高校三年の冬、7人制女子ラグビーが2016年五輪の正式種目になるのを知った。女子ラグビーの日本代表コーチが直接来て、「ラグビーをやってみないか」と誘われた。陸上部の監督

美妃選手(体育2、中京大)は、興味を持った。陸上部で短距離をやり、インターハイでは1600メートル8位、球技の経験もあつた。中京大に進学する直前の3月、他競技の選

手対象の選考会を受け、日本代表候補の一人になった。大学の陸上競技部で平日に練習する一方、土日はラグビーチーム「名古屋レディーズ」に合流する。チームは関西大会(15人制)で4連覇している強豪。メン

飯田選手は、体格の違う選手を念頭に、スピードと体力の向上を課題にしている。「世界で勝つのが目標。絶対に負けたくない」。目標の先は「世界」だ。

守りの要は元Jリーガー 須崎選手

「今は試合に出られるのていいない。

が楽しい」。サッカー部の幼稚園の時、父親に連れられ、須崎恭平選手(体育2、磐田東)の練習を見学し、サッカーを始める。ユースから昇格したものの、Jリーグの出場は1試合だけだった。家族とも相談し、教員免許取得を決意して中京大に入り、サッカー部では一年生からレギュラーだ。再びJリーグの舞台に戻る夢は今も捨



守りの要だ。試合中は、声を出して選手同士のコミュニケーションをとるようにしている。相手選手との1対1を高めたい。ヘディングも

強くしたい。サッカーに取組む姿勢は貪欲だ。沢入重雄・チームディレクターは「彼にはもっと上を目指してほしい。チームではJリーグの経験を他の学生に伝え、いい影響を与えてほしい」と期待する。

剣聖旗選抜高校大会 剣友会が初開催

中京大学剣道部OBでつくる剣友会(水谷好助会長)主催の「剣聖旗第1回全国選抜高校剣道大会」が2月11、12の両日、豊田キャンパスで開かれた。

OBが指導する全国49高校の剣道部員約800人が参加。12日の本大会は、男女59チームによるトーナメント戦が展開された。男子は高山西高(岐阜)、女

子は守谷高(茨城)が優勝し、剣聖旗が授与された。剣友会は、高校生の交流と競技力向上を目指し、この大会を毎年開催していく。

学生スタッフ募集

「中京大学スポーツ」の取材・編集に携わる学生スタッフを募集します。取材のノウハウなどは経験者が指導します。下記の通り説明会(1時間)を開き、活動の内容を紹介します。参加希望者は、スポーツ振興室(0565-46-6935)まで、事前にご連絡下さい。
■4月9日17:00～ 名古屋0号館07D
■4月10日17:00～ 豊田スポーツ振興室(青雲館内)

プロテイン摂取 正しい知識で

筋肉に負荷をかけるレジスタンス・トレーニング後のプロテインの摂取は、除脂肪体重(筋肉量)を増やしたい選手がよく行うが、大学生の場合、体重が増えないことが多い。これには、二つの理由が考えられる。

まず、大学生(特に一人暮らし)の場合、経済的な理由などで普段から消費カロリーに対して摂取カロリーが不足していることが多い。その場合、摂取したプロテインは筋肉にならず、不足するカロリーを補うことに消費されてしまう。

次に、筋タンパクを作るためには、材料となるタンパク質だけでなく、筋タンパク合成のために多くのエネルギー(ペプチド結合一つ当たり4個のATP)が必要となる。今年、アメフト部の学生を対象に大学院生が行った実験で興味深い結果が得られた。まず食事調査と栄養指導を行い、トレーニングに見合った食事(約3700キロカロリー)をさせた上で、29日間わたってプロテイン20gだけを摂取させた群では、体重も筋力も増加しなかった。

一方、プロテイン20gに加えて、1日に800キロカロリー(約1食分のカロリー)の糖質を付加した群では、29日間で体重が約1.6kg増、除脂肪体重が約0.7kg増、ベンチプレス一回だけ持ち上げられる最大重量(1RM)が約4kg増加した。このように、レジスタンス・トレーニング後にプロテインを摂取するだけでなく、十分なカロリーを摂取することが、増量には重要である。

また、タンパク質は多く摂取すればすべからず、必要以上に摂取した分は脂肪として蓄積することにもなりうる。タンパク質摂取量は、持久系選手では体重1kg当たり1.5g、筋力系の選手でも最大2.0gが目安である。

質問 自分は筋肉増量を目指して、筋トレ後にプロテインを飲んでいますが、体重が増えません。どうすれば、増量できるでしょうか？(アメリカンフットボール部3年 岩田龍典選手)



回答者 松本孝朗・スポーツ科学部教授(スポーツ栄養学)

先生に問う

連覇への道

水泳 インカレ男女V挑戦

水泳部は、今秋の学生選手権(インカレ)で、「男女アベック優勝」を目標に掲げている。昨年の女子優勝、一昨年の男子優勝という西日本の大学初の快挙に続き、男女同時優勝を歴史に刻もうと、猛練習している。連覇を目指すクラブは多い。アメリカンフットボール、準硬式野球、バレーボール女子などは、今季の東海リーグを連続優勝で突破し、全国での上位を狙う。各クラブの主将たちは、新チームでの「連覇」に向けた意気込みを見せている。



インカレ同時優勝をめざす水泳部の小松原主将(手前左)と藤川主将(同右)ら

圧倒的な練習量

水泳選手たちは、豊田キャンパスの温水プールで、冬場も早朝と夕方の計4時間、連日水しぶきを上げてきた。泳ぎの後は、ウエイトトレーニングをこなす。この圧倒的な練習量が、連覇への原動力だ。

男子は、昨年のインカレで2年連続の総合優勝を狙ったが、中央大にわずかな差で準優勝となった。それだけに、藤川太郎主将(体育3、双葉)は「今年ハリベンジを果たしたい。有力な4年生が抜けて苦しいが、総合力で勝ちたい」と、決意を語る。

昨年総合優勝した女子は、日体大がライバルとなる。小松原彩香主将(体育3、赤穂)は「守りに入らず攻める。得点が高いリレー種目に力を入れた」とリレーを重視する作戦だ。というのも、「関東

の強豪大学は選手が個々にスイミングクラブで練習しているが、本学は全員が一緒に練習しているから、リレーは有利」なためだ。

水泳のインカレで男女同時優勝した例は、第44回大会(1968年)の日本大学(1968年)の日本大学男子の天皇杯、女子の奥野杯を一緒に持ち帰るつもりだ。

河村主将も「新チームがどれだけできるか試されていると思う。集団としてのレベルを上げたい」と、再び関西王者との対戦を見据えている。

「東海」完全制覇へ



水泳部の今年テーマは「攻勢」とした。9月には男子の天皇杯、女子の奥野杯を一緒に持ち帰るつもりだ。

勝し、抽選での代表選出だった。攻撃の司令塔、岩田選手は「今年は必ず東海リーグを完全制覇したい」と、地元ライバルに全勝するつもりだ。

アメフト

初の東海代表として臨んだ昨秋の全日本大学選手権では、北陸、九州代表を撃破し、準決勝で関西代表

の関学大に55対6で敗れた。関学大は、大学選手権で最多の24回優勝、選手数は40人の中京の約4倍、社会人チームとも合同練習するなどしており、一枚格上だった。

今年、全日本学生選手権3連覇に挑むのが、アルティメットの女子だ。アルティメットは「決まった形がなく、攻め方は自分たちで作る。走っているから、体力が速かった。だけど、フィジカル面では何とかなると思った」(河村主将)。今後の課題と手応え。関西王者との対戦で得たものは大きい。

アルティメット女子



河野主将

今年、全日本学生選手権3連覇に挑むのが、アルティメットの女子だ。アルティメットは「決まった形がなく、攻め方は自分たちで作る。走っているから、体力が速かった。だけど、フィジカル面では何とかなると思った」(河村主将)。今後の課題と手応え。関西王者との対戦で得たものは大きい。

「打ち勝つ」がスローガン

た。昨年は春の東海リーグ

準硬式野球

準硬式野球部は、輝かしい伝統がある。インカレで過去8回優勝し、中央大の9回に次ぐ記録を残してきた。



黒島主将

「速攻で押せるチームにしよう」「走り勝つ」を合言葉に、走るトレーニングも重ねている。「いまのチームの特徴は元気があること」(内藤主将)。リーグ戦が待ち遠しい。

速攻で押し「走り勝つ」

主将(体育3、天白)の決意だ。

ハンド女子

東海リーグは昨年の春秋ともに優勝し、11月のインカレで12年ぶりに初戦突破し、ベスト16に進出した。「先輩の壁(初戦敗退)を破った。自分たちはさらに上にいきたい」。内藤彩乃

新チームは、個人の能力を高める練習を組んでいる。ウエイトトレーニングは週1回増やした。

集中力強化に取り組み

バレー女子

東海リーグで昨年優勝し、シード校として出場したインカレで、3回戦で競り負け、準々決勝進出を逃した。「まだまだ甘い。気持ち



坂本主将

「まだまだ甘い。気持ち」(坂本主将)を展覧したい(坂本主将)考えた。目標は「あくまで日本一。東海リーグでは決して負けたくない」。

自転車 欧州プロのロードレースに参戦 中根選手、榊原選手

自転車競技部の中根英登選手(体育3、名古屋・緑)と榊原健一選手(体育2、半田農業)は、欧州各地の自転車ロードレースに参戦している「チームNIPPON」と昨年末にプロ契約した。2月からイタリア合宿に派遣され、3月にかけてプロのレースに出場している。二人は「あくまで大学のレースで勝つのが目的。そのために海外で経験を積みたい」と夏のインカレで成果を見せるつもりだ。

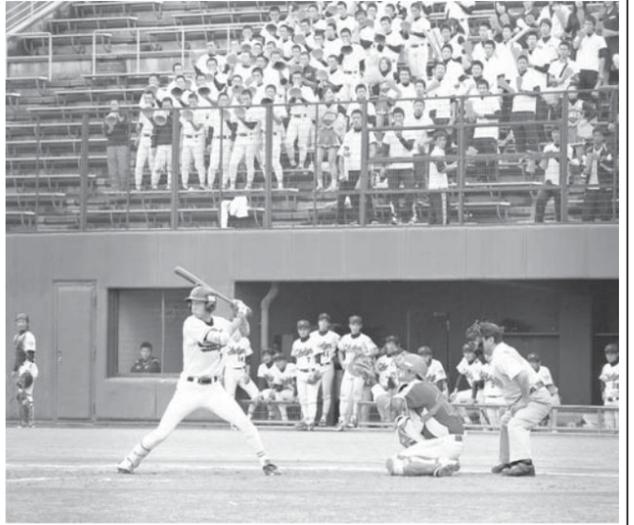


ヨーロッパでロードレースに参戦する中根選手(左)と榊原選手

ロードレースの本場、欧州には、二人とも大学進学の前後に遠征した経験がある。現地の人気の高さ、競技レベルの高さを目の当たりにして、「自転車を極めたい」(中根選手)と思った。名古屋市内の寮から豊田キャンパスまで自転車で通学、さらに一日100~300キロ走り込むなど、ハードな練習を自分に課している。

中根選手は、国内ロードレースで優勝経験があり、榊原選手は昨年のインカレのポイントレース(競技場を30~40キロ走行)で優勝するなど、実力は大学トップクラス。「自分が強くなれたのも、近くに強い選手がいるのが大きい」(榊原選手)と、いいライバルでもある。夏のインカレでは、個人優勝に加え、チーム総合で3位以内を目指している。

チームNIPPONは、日本舗道がスポンサー。外国人選手を多数抱え、バルセロナ五輪に出場した中京大OBの大門宏監督(85年体育卒)が率いる。プロ契約にあたり、大門監督からは「大学生とのプロ契約はチーム初の試みだ。大学を辞めなくてもプロを目指す可能性を証明してほしい」と激励された。本場のプロ経験が、実力アップにつながるにちがいない。



2011 年度 体育会各クラブの主な戦績(団体)

■アーチェリー部

2011 年度東海学生アーチェリー王座出場校決定戦
男子団体総合 11 位、女子団体総合 7 位

■アイスホッケー部

平成 23 年愛知学生アイスホッケー競技会 優勝
第 20 回中部学生アイスホッケー選手権大会 優勝

■アメリカンフットボール部

2011 年度東海学生秋季リーグ戦 優勝
全日本大学アメリカンフットボール選手権 ベスト 4

■アルティメット部

第 22 回全日本学生アルティメット選手権大会
男子 11 位、女子優勝

■空手道部

春季東海学生空手道選手権大会
男子団体組手 3 位、女子団体組手 優勝
秋季東海学生空手道選手権大会
女子団体組手 優勝、男子団体形 優勝、女子団体形 優勝

■弓道部

第 55 回東海学生弓道秋季リーグ戦 IV 部 A ブロック 優勝

■剣道部

第 55 回西日本学生剣道大会 団体 3 位
第 58 回東海学生剣道優勝大会 団体 準優勝
第 34 回東海女子学生剣道優勝大会 団体 優勝
第 30 回全日本女子学生剣道優勝大会 団体 ベスト 8

■硬式野球部

平成 23 年度秋季リーグ戦 2 部 優勝

■硬式庭球部

全日本大学対抗テニス王座決定試合 東海地区予選
東海大学対抗テニスリーグ戦 男子 3 位、女子 3 位

■サッカー部

平成 23 年度 第 60 回全日本大学サッカー選手権大会 3 位

■サッカー部女子

第 20 回全日本大学女子サッカー選手権大会 東海地区予選 ベスト 4

■自転車競技部

文部科学大臣杯第 67 回全日本大学対抗選手権自転車競技大会
大学対抗得点ピスト競技総合 9 位、ロード競技総合 6 位

■柔道部

第 60 回全日本学生柔道優勝大会 ベスト 32
第 20 回全日本学生女子柔道優勝大会 ベスト 16
第 18 回東海学生女子柔道夏季優勝大会 三人制 準優勝

■準硬式野球部

平成 23 年度東海選手権大会 優勝
平成 23 年度東海地区大学準硬式野球大会 春季リーグ戦 優勝
第 63 回全日本大学準硬式野球選手権 ベスト 8
平成 23 年度東海地区大学準硬式野球大会 秋季リーグ戦 準優勝

■新体操部

第 61 回西日本学生新体操選手権大会 女子団体総合 2 位
第 63 回全日本学生新体操選手権大会 女子団体総合 6 位
第 64 回全日本新体操選手権大会 女子団体 総合 10 位

■水泳部

第 87 回日本学生選手権水泳競技大会 男子総合 2 位、女子総合優勝

■スキー競技部

第 57 回中部日本学生スキー選手権大会 男女総合優勝

■スケート部

第 84 回日本学生氷上競技選手権大会フィギュアスケート 男子団体優勝、女子団体 3 位

■男子ソフトテニス部

平成 23 年度春季東海学生ソフトテニス大学対抗リーグ戦 2 位
平成 23 年度西日本大学対抗ソフトテニス選手権大会 ベスト 8
平成 23 年度秋季東海学生大学対抗リーグ戦 優勝

■女子ソフトテニス部

第 65 回文部科学大臣杯全日本大学対抗ソフトテニス選手権大会 ベスト 8
平成 23 年度西日本大学対抗ソフトテニス選手権大会 ベスト 8
平成 23 年度春季東海学生ソフトテニス大学対抗リーグ戦 準優勝
平成 23 年度秋季東海学生ソフトテニス大学対抗リーグ戦 優勝

■男子ソフトボール部

第 68 回春季東海地区大学ソフトボールリーグ戦 優勝
東海地区総合男子ソフトボール選手権大会 優勝
第 43 回西日本大学ソフトボール選手権大会 ベスト 8
第 55 回中日本総合男子ソフトボール選手権大会 準優勝
文部科学大臣杯第 46 回全日本大学選手権大会 3 位
第 69 回秋季東海地区大学ソフトボールリーグ戦 準優勝

■女子ソフトボール部

第 57 回春季東海地区大学ソフトボールリーグ戦 準優勝
文部科学大臣杯第 46 回全日本大学選手権大会 ベスト 8
第 58 回秋季東海地区大学ソフトボールリーグ戦 準優勝

■体操競技部

西日本学生体操競技選手権大会
男子団体 総合 5 位、女子団体 総合優勝
東海北陸体操競技選手権大会
男子団体総合チーム A 2 位、女子団体総合チーム A 優勝

■男子卓球部

平成 23 年度東海学生卓球春季リーグ戦 団体 3 位
平成 23 年度東海学生卓球秋季リーグ戦 団体 4 位

■女子卓球部

平成 23 年度東海学生卓球春季リーグ戦 団体 3 位
平成 23 年度東海学生卓球秋季リーグ戦 団体 3 位

■ダンス部

第 24 回 All Japan Dancer Festival-KOBE 入選
第 14 回 Artistic Movement in TOYAMA 2011 特別賞受賞
～表現芸術の世界から未来を予測させるダンスの動きと空間の美しさに対して～

■チアリーディング部

チアリーディング日本選手権大会フライデートーナメント出場

第 24 回全日本学生チアリーディング選手権大会 21 位 /76 チーム

■男子バスケットボール部

第 49 回東海バスケットボール大会 3 位
第 61 回西日本バスケットボール選手権大会 ベスト 16
第 82 回東海学生バスケットボールリーグ戦 3 位

■女子バスケットボール部

第 60 回西日本学生バスケットボール選手権大会 ベスト 8
第 82 回東海学生バスケットボールリーグ戦 4 位

■バドミントン部

第 113 回東海大学バドミントン選手権大会 男子 準優勝
第 31 回愛知大学バドミントン選手権大会 男子団体戦 優勝
第 114 回東海大学バドミントン選手権大会 男子 優勝

■男子バレーボール部

第 131 回東海大学男女バレーボールリーグ戦 春季大会 2 位
第 37 回西日本バレーボール大学男子選手権大会 ベスト 8
第 132 回東海大学男女バレーボールリーグ戦秋季大会 3 位

■女子バレーボール部

第 131 回東海大学男女バレーボールリーグ戦 春季大会 優勝
第 37 回西日本バレーボール大学女子選手権大会 ベスト 4
第 58 回秩父宮妃秩父宮賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会 ベスト 16

■男子ハンドボール部

東海学生ハンドボール選手権大会 春季リーグ戦 2 位
第 50 回西日本学生選手権大会 準優勝
東海学生ハンドボール選手権大会 秋季リーグ戦 3 位
第 54 回全日本学生選手権大会 ベスト 8

■女子ハンドボール部

東海学生ハンドボール選手権大会 春季リーグ戦 優勝
東海学生ハンドボール選手権大会 秋季リーグ戦 優勝
第 47 回全日本学生選手権大会 ベスト 16

■フェンシング部

2011 年度全日本学生王座決定戦 女子サーブル 4 位
第 51 回全日本大学対抗選手権 男子サーブル 4 位
第 64 回全日本選手権 男子サーブル 8 位

■ラグビー部

2011 東海学生ラグビーリーグ戦 4 位

■陸上競技部

天皇賜杯 第 80 回日本学生対校選手権大会 男子総合 3 位、女子総合 8 位

■男子陸上ホッケー部

2011 年度関西学生ホッケー春季リーグ 予選 3 位
第 10 回全日本大学ホッケー大会 2 位
2011 年度関西学生ホッケー秋季リーグ 予選 3 位

■女子陸上ホッケー部

2011 年度西日本学生ホッケー選手権大会 予選リーグ 3 位
2011 年度関西学生ホッケー秋季リーグ 予選 3 位



いつも応援を
ありがとう。

アメリカンフットボール全日本大学選手権の西日本代表決定戦(対関学大)でチアースティックを手に応援する学生やOBら(12月4日、神戸市立王子スタジアム)

2011年度体育会功労者

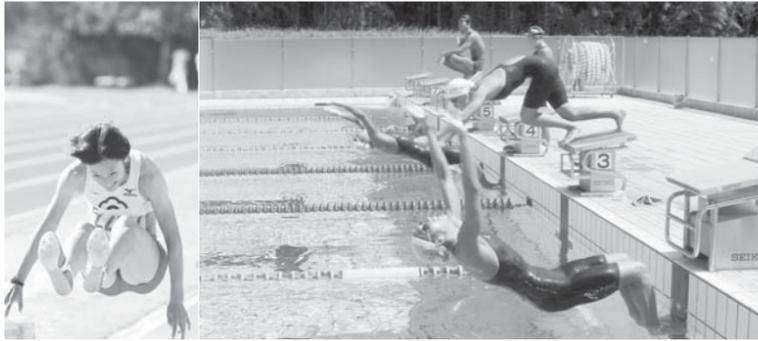
体育会(高橋繁浩会長)は、体育会の発展に貢献した2011年度の功労者を決めた。国際大会に出場した選手と、全国大会個人3位または団体ベスト4以上の成績を収めた個人43人、7団体で、3月8日に授賞式を行った。表彰されたのは次の皆さん。

【個人の部】陸上競技部 村明彦(体育3)、佐藤圭太(体育2)、北島寛也(スポ1) 自転車競技部 中根英登(体育3)、榎原健一(体育2)、山本晴加(体育2) フエニシング部 浦野夏菜(スポ1) スケート部 世界明斗(体育2)、無良崇人(体育3)、木原龍一(スポ1)、河野有香(スポ1)、大嶽涼香(現社3) ソフトテニス部 藤本晃生(体育2)、荻原雅斗(体育3) ソフトテニス部 河合裕美(スポ1) ウェイトリフティング部 福本真莉恵(現社3)、平山雄一(体育2) 水泳部 小野口由夏(体育4)、前田浩史(体育4)、伊藤健太(体育3)、雨宮未侑(体育2)、末永京香(体育2)、原翔太(体育4)、白井裕樹(体育4)、富田尚弥(体育4) 準硬式野球部 木場政志(体育4)、島村雄太(体育4)

【団体の部】陸上競技部 服部辰也(体院2)、田口博崇(体育4)、米原翔太(体育4)、屋貝博文(体育3)、星畑朗人(体育4)、安井一樹(体育3)、古川拓夢(体育3)、和田健太郎(体育3)、毛利俊(体育3) 水泳部 富田尚弥(体育4)、白井裕樹(体育4)、前田浩史(体育4)、伊藤健太(体育3)、金子葉(体育2)、小松原彩香(体育3)、雨宮未侑(体育2)、小野口由夏(体育4) アルティメット部 新井真菜美(体育4)、瀬藤裕子(体育4)、丸山由紀(体育4)、水野江里加(体育4)、川崎愛里沙(体育3)、河野雅(体育3)、木村友紀(体育3)、林奈央子(体育3)、山尾久美子(体育3)、岡田夏美(体育2)、加藤友希(体育2)、北村夏美(体育2)、鈴木里奈(体育2)、小川明日香(スポ1)

【個人の部】ソフトボール部 杉本沙佑美(スポ1)、永津莉奈(スポ1) 男子ソフトボール部 嶋田稔貴(経営4)、由久保健(体育4)、望青孝典(体育4)、根津啓太(体育4)、石原健詞(体育3)、小池昌弘(体育3)、宮地達也(情報3)、山本佑馬(体育3)、上田洋輔(現社2)、杉本尚樹(体育2)、田貴生(総政2)、深津悠平(体育2)、三島知也(体育2)、山田将也(体育2)、和田隆太(体育2)、平野友也(現社1)、伊藤太慈(スポ1)、伊藤元晴(スポ1)、中田智士(スポ1)、平岩裕基(スポ1)、山口恭平(スポ1) サッカー部 清水貴文(3)、榎原健一(体育2)

【個人の部】南部健造(スポ1)、牧野修造(スポ1)、栗田真吾(体育2)、福ヶ迫和秀(体育2)、須崎恭平(体育2)、石川誠也(体育2)、佐藤和弘(体育3)、新里亮(体育3)、石原卓(体育3)、中村亮太(体育3)、奥村佳也(現社4)、加藤駿一(体育4)、金康太(体育4)、熊澤圭祐(体育4)、佐藤峻(体育4)、小川真司(体育4)、中田智久(体育4)、藤牧祥吾(体育4)、堀勇至(体育4) アメリカンフットボール部 小川昌哉(体育4)、小林一馬(情報4)、安孫子昭平(体育4)、渡邊幸太(体育4)、松永真志(体育4)、渡邊雄太(体育4)、森明宏(体育4)、木村雄一(体育4)、河村泰稔(情報3)、大川卓馬(体育3)、吉見拓真(体育3)、岩田龍典(体育3)、水田貴之(体育3)、徳永翔平(体育2)、内勇仁(体育2)、早川智之(体育2)、近藤健介(心理2)、大石泰介(体育2)、横木啓人(体育2)、小西壮介(体育2)、神谷賢太郎(体育2)、梶村透(体育2)、松下祥貴(体育2)、横関正次(情報2)、伊奈佑太(法2)、木村直文(体育2)、中山拓海(体育2)、吉川雄介(体育2)、若森雅生(スポ1)、福森雄大(現社1)、前山敬吾(情報1)、足立雅洋(情報1)、米田成利(スポ1)、谷村夢馬(スポ1)、比留間正純(現社1)、吉見大輝(スポ1)、岡崎哲矢(法1)、伊藤雅大(スポ1)



がんばった分の汗と笑顔



日本学生氷上選手権男子で優勝した無良崇人選手のフリー演技(1月8日、北海道苫小牧市、写真提供・共同通信社)

